

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200085		
法人名	特定非営利活動法人だいの花		
事業所名	NPOだいの花小規模多機能型居宅介護		
所在地	岐阜県関市西神野605番地1		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町村受理日	平成23年3月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190200085&SCD=730
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人といよの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中その人らしさを大切に、地域の中で地域の方との交流を沢山して行く。自然の多い中で健康的に過ごしてもらいたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が住み慣れた自宅で、地域の人々と暮らしていけるよう、事業所の特性を活かし、地域と関わりながら取り組んでいる。また、利用者や家族の思いを大切に、時間にとらわれることなく本人を尊重した支援を目指している。今回取り入れたリーダー職は、送迎時の家族の伝言など申し送りを受け、一日のスケジュールを把握してまとめ役を担っている。管理者は、責任のあるリーダーをやることで職員を育てるよう努めている。今後、老老介護や独居の人等に何が必要か、高齢者や地域住民の要望などを吸い上げ、地域福祉の担い手として期待できる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に念頭においている。 努力している	管理者と職員は、ミーティングで理念について話し合い日々のケアでの実践を確認している。事業所が自宅の延長となるよう、地域とのかかわりを大切にしながら取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通しての行事と一緒に参加してもらい、又お手伝いをしてもらう 消防訓練の一緒に参加	隣接する婦人部交流センターが、地域の交流場所となり、婦人部や農業センターの職員に行事の参加や手伝いをしてもらっている。また、草取り・神社の祭礼・敬老会に利用者と一緒に参加して積極的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市のキャラバンメイトの講習を受け地域の理解の為に市の地域包括と協力して行事を行う計画をしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かして行くように努力している、出来る事から実践している。	運営推進会議では、事業所の現状報告や市の職員からの提案・雑談形式で家族との意見交換などを行っている。家族から気軽に質問や要望など出されているが、地域住民の出席が得られていない。	幅広く地域住民の参加を促し、多くの意見を得てサービスの向上に繋げることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回参加してもらっている 常々の相談を行っている	事業所内の問題や運営基準について市担当者と話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センターから高齢者の訪問依頼を受けたり、講習で寸劇の応援をするなど協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例のたび皆で協議し拘束を行わない方向で進めている。もやむを得ない状況の時は、家族の協力、了解のもとに進めている。	職員は、身体拘束による弊害について、研修を受け、ミーティングで話し合っている。利用者が自由に出入り出来るよう、鍵はかけていない。また、利用者に話しかける時も、言葉に気をつけ拘束をしないケアを心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会ある毎の研修会に参加し、徹底し、現場においては、入浴時、会話の中からつかめるような努力をしている		

NPO小規模多機能型居宅介護 だいにんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず管理者が十分な説明を行い、疑問な箇所においては、納得いくように説明を行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、通いの送迎時を通して意見を聞きそれらを反映させている	運営推進会議には、常に3～4人の家族の参加があり、その場で意見や要望を聞いている。また、通いの送迎時や訪問時にも苦情や要望など聞き、申し送りやミーティングで話し合い運営に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングやその他の機会からも意見は常々きいていくようにしているも必ずしもすべてがはんえいしているわけではない	管理者は、申し送り時など日常的に意見を言いやすい関係を築いている。出された意見をミーティングで話し合い、全職員の納得後、改善するようにしている。今回リーダーという職域が取り入れられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様給与等はすべての職員が満足しているとは思えない、環境とうにも不満を感じているものもある		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社としての研修会は年に2回行っている、その他は個々の向上心に任せている(進めている物もある)		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネは研修などで交流する機会も多いが他の職員はどうしても交流が少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎朝の申し送り、記録、連絡帳にて伝え、要望等の共有につとめている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎朝の申し送り、記録、連絡帳にて伝え、要望等の共有につとめている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを説明する段階で本人と家族のニーズをよく見極め、他のサービス事業者の話、又当時業者のメリット、デメリットについて話している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事務的、又固定観念から個々の状況に応じた対応が出来ないときもある		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ともに共有しあえるときもあるもの事務的、固定観念があつての対応となるときもある		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事務的、又固定観念から個々の状況に応じた対応が出来ないときもある又、事業所として限られたことしか出来ないときもある	訪問時に利用者の知人や同級生に会いに出かけている。また、馴染みの店へ買い物に行ったり、通いの日や行事に合わせて、友達が訪問するなど関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係の良い人たちの支援は、行いやすいも、孤立させない支えが完全ではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事務的にもなる場合もあるが、訪問、電話での対応、入院の場合は、必ず見舞うなどしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訪問を通じて聞き取りをしている	送迎時に利用者と交わした会話や、訪問時の日常の行動や会話の中から希望や意向を把握するよう努めている。意思疎通の困難な利用者には、顔の表情を見て思いを把握するよう心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問を通じて聞き取りをし、出来る限りの支援が出来るよう職員間での話し合いなどで行っている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問を通じて聞き取りをし、出来る限りの支援が出来るよう職員間での話し合いなどで行っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い、職員のミーティングで意見を出し合って計画を作成している	送迎時や訪問時に家族の要望を聞き、ミーティングで意見を出し合い介護計画を作成している。家族の急な要望や状態によって泊まりに変更するなど柔軟に対応しているが、介護計画の共有がなされていない。	職員間での介護計画の共有や、日々の記録が計画に即した記述になるよう工夫し、計画の見直しができるシステム作りを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議を行い、職員のミーティングで意見を出し合って計画を作成している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、ケアマネとはなしあい、検討して実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限りの支援につとめるようこころがけている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合いながら、家族が主となるように努めながらも、出来ない家族においては、事業所として可能な限りの支援をしている	かかりつけ医の受診は、事業所での通い・泊まりの様子を伝え、基本的に家族が同行している。急変時は、職員が付き添うこともあり、互いに連絡し合って情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡を取り合い、介護職は、看護職の指示をあおぎながら、介護職も必要な情報を伝えている、又心がけるようしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、相談員と必要な連絡をとりつつ進めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所と家族の話し合いになり地域の関係者と共有することはしていない	重度化や終末期に向けて、事業所での対応できることを説明している。状態の変化ごとに、家族・職員・かかりつけ医と話し合いを重ね、情報を共有しながら出来る限りの支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署よりの救命救急の訓練を受ける、看護師、管理者等協力してマニュアル作成などで対応出来るよう努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、消防署よりの指導を受けるなどしている、地域の人との関係、協力をお願いしている	隣接する法人の事業所と一緒に、地域住民の参加を得て避難訓練を行っているが、夜間想定訓練は、昨年に続き検討中である。また、備蓄品は、飲料水のみで食料品等の準備がなされていない。	事業所が2階ということからぜひ、夜間想定訓練と、食料品・寒さ対策など備蓄品の整備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員みなと共有して、プライバシー確保に努められるような対応をこころがけている	トイレや入浴時、居室などでケアをする時に、カーテンやドアを閉めるよう気をつけている。また、トイレ誘導時に、他の人にわからないような声かけなど、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応に心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から思いを見つけて希望が叶えられる事は、出来るようこころがけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りに優先しているもすべての人の希望に添えているわけではない		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の持ち物の中で出来るかぎりやアドバイスはして支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合ったお手伝いをお願いしている、その上で職員と一緒に食事をするその中で好みなどの話を聞いている	利用者と一緒に、いもの皮むき・食器洗い・後片づけなどしている。連絡帳でその日に食べたものを家族に知らせ、利用者の栄養バランスの確保に心掛けている。また、全職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療の必要な人はそ指示に従う、それ以外の方は、家族や看護師、職員と相談しながら適切に確保できるようにしえんしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアは必ず行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用、過去の失敗状況を職員で把握する、家族に聞くなどして支援している	事業所に着いた時や帰宅前にトイレに行くようにしたり、排泄習慣を把握してトイレ誘導している。また、可能な限り、自宅でもトイレで排泄が出来るよう、家族にも協力を依頼して、自立にむけた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用、記録で排泄状況を知り職員間で便秘の予防をしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の思いに任せて一日をかけて入浴は可能であるも時として職員の都合になっている場合もある	利用者の希望に合わせて、いつでも入浴を楽しむことができる。拒む人には、声かけや誘うタイミングなど工夫して対応している。また、ゆず湯など季節を楽しむ支援もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に心がけて、支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族や医療と連携をとり、看護師を任せて適切な支援をしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りの支援に於いて個々の楽しみを支援出来ていると思う		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望は聞いているもすべてに叶うのは、出来なく、全体で考えている場合が多い、家族の協力は得られる場合が多いが、地域においてはまだまだ出来ていないことが多い	近所の散歩・喫茶店・ドライブ・カラオケ教室や生け花教室に出かけている。また、花見・紅葉狩り・ホテルで食事をするなどの外出支援をしている。遠出する時は、家族からもらったお小遣いで、お土産を買う楽しみなどの支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と話し合い、必要な人には、所持してもらい使える支援も行っている</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望にそっている</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に考えて提供出来るようにしている</p>	<p>リビングの窓から自然光が入り明るく、山や田畑の景色を見ることが出来る。また、利用者の書いた年賀状など飾って季節感を採り入れる工夫をしている。たばこを楽しむ利用者に、ベランダで職員が付き添うなど、思い思いに過ごせるよう心掛けている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>行っている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>行っている</p>	<p>泊まりの居室は、同じ部屋になるよう配慮し、表札をかけ混乱しないよう工夫している。また、使い慣れた毛布やコタツ、好みの物を持参するようお願いして、本人が安心して過ごせるよう支援している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>工夫はしているもすべての人に添わずには少々無理もある</p>		